

会 記・Proceedings

1992 年度第 1 回役員会

1992 年 5 月 7 日 (木)、於 東京水産大学水産資料館 2 階会議室

出席者: 岩井, 沖山, 落合, 新井, 上野, 高木, 谷内, 松浦, 宮, 佐野, 多紀, 富永, 馬場, 丸山, 藤田

役員会のはじめに岩井保会長から挨拶があった。

1. 前回議事録の確認。
2. 報告事項 編集: 39 巻 1 号は 5 月中に発行の予定。掲載論文は 15 篇。投稿規定の若干の変更をした。会計: 年会の決算報告があった。なお、今年度は年会にかかる費用を参加費等でまかない独立採算制をとった。今後この方針で年会を運営する。総目録作成委員会: 38 巻 4 号までの総目録 (author index, new taxon index, タイトルに基づく subject index) は約 152 頁となる。
3. 1993 年度年会は国立科学博物館で行うことに決定し、更に 1992 年度 1 年間の役員会開催日程について検討した。
4. 国際魚類研究会議事務処理委員会委員 (1992-1993 年) を規約に基づき以下の通り決定した。会長 (岩

井 保), 副会長 (沖山宗雄), 会計 (谷内 透), 庶務 (新井良一), 編集 (松浦啓一), 会長委嘱委員 (上野輝彌, 尼岡邦夫, 落合 明, 岡村 収)。

5. 学協会著作権協議会の複写に係わる権利委託の手続きをすることに決定した。
6. 1992 年度年会の反省: 今年度から年会参加の事前申し込み制が実施されたため、特に会計、研究発表受付担当者から多くの問題が指摘された。展示発表では、指定された面積と準備が異なっていたため不都合が生じたこと、展示発表者による 3 分紹介でスライドが効果的に使用されていたことなどが指摘された。来年度はこれらの反省点をふまえ、改善していくことにした。
7. 今後、年会研究発表件数の増加が見込まれるため、その対策として来年度は編集委員会及び評議員会を研究発表期間中に開くのではなく、前日の 3 月 30 日の午後で開催することにし、それでも研究発表件数を消化しきれない場合には研究発表の開始時間を早めて 9 時 (現行では 9 時 30 分) からとし、終了時間を延長することに決定した。
8. その他

編 集 後 記 ・ Editorial Notes

第 38 巻 3 号より、主任編集委員が多紀保彦編集幹事から宮 正樹に交代しました。なにぶん初めての仕事なので、いろいろと至らない点が出てくるかと思いますが、皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

さて、冒頭の「編集委員会からのお知らせ」にもありますように、新編集システムになって原稿の流れが非常に速くなってきました。完成度の高い原稿だと出版までにわずか 4 ヶ月しかかかっていない論文も出てきました。速ければよいというわけではありませんが、数々の

国際誌が台頭してきている今日、国内の学会誌に論文を出版するメリットととして十分評価されて然るべきものだと思います。

また、編集作業の合理化に伴い投稿規定が若干改訂されました。原稿の体裁がきちんとしている論文は、それだけスムーズに出版までこぎつけられます。投稿前にもう一度「投稿規定」と「原稿作成上の注意」を読み直していただければ幸いです。

(M. M.)